

【中小企業の診断及び助言に関する実務の事例Ⅳ】

第1問（配点 28 点）

（設問 1）

	(a)	(b)
①	売上高総利益率	17.67 （ % ）
②	売上債権回転率	4.89 （ 回 ）
③	負債比率	352 （ % ）

（設問 2）

多様な金属加工技術力を有するため収益性が高い一方、売上高に比べ売上債権が過大で借入依存度が高いため、効率性・安全性が低い。

第2問（配点 34 点）

（設問 1）

売上高	1,935
売上原価	1,695
売上総利益	240
販売費及び一般管理費	300
営業損益	－60
営業外収益	13
営業外費用	24
経常損益	－71
特別利益	0
特別損失	0
税引前当期純損益	－71
法人税等	0
当期純損益	－71

(a)	傾向は、売上高が 10 % 減少するのと、営業損益以降の損益が黒字から赤字に変わる。
-----	--

(b)	原因は、費用に占める固定費の割合が相対的に大きいため、売上高の減少に対する利益の減少幅が大きくなるからである。
-----	---

	(a)	(b)
(1)	2,241 (百万円)	・ 固定費の修正 : $1,140 + 24 - 13 = 1,151$ ・ 必要売上高 (S) : $S - 855 / 1,935S - 1,151 = 100$ $\therefore S = 2,241.375 \div \underline{2,241}$ (百万円)
(2)	1,756 (百万円)	・ 目標経常利益を達成する固定費 (FC) : $(1,935 - 855) - FC = 100 \quad \therefore FC = 980$ ・ 損益分岐点売上高 (S) : $S - 855 / 1,935S - 980 = 0$ $\therefore S = 1,755.8 \cdots \div \underline{1,756}$ (百万円)

	第×3 期	第×4 期	第×5 期
ケース 1	19 (百万円)	24 (百万円)	24 (百万円)
ケース 2	22 (百万円)	27 (百万円)	27 (百万円)

	(a)	(b)
プロジェクト Z	35.1 (百万円)	
プロジェクト E	64.8 (百万円)	○

- ・評価指標：回収期間
- ・計算と比較：
プロジェクト Z：1.04（年）
プロジェクト E：2.03（年）

よって、プロジェクト Z の回収期間がプロジェクト E に比べて短くなるため、プロジェクト Z のほうが有利となる。

大	口	取	引	先	の	経	営	に	大	き	く	左	右	さ	れ	る	こ	と	で
経	営	が	不	安	定	に	な	る	。										

異	な	る	需	要	動	向	を	示	す	こ	と	で	リ	ス	ク	分	散	に	よ
る	経	営	の	安	定	化	を	図	る。										